金剛寶戒寺便

令和五年四月一日発行　第一〇九号
https://www.houkaiji.jp

檀信徒の皆様こんにちは。一日の始まりが早くなってきました。早朝の境内は小川のせせらぎに足を入れるような冷たさで、心身を浄化してくれている気がします。小鳥たちのさえずりは固くなった考えから解放をしてくれます。

三月は林覚乗僧正の講演と、大河榮正僧正の巡廻布教がありました。マスクの解禁も宣布されましたが、まだまだ着用している方がほとんどでした。けれども時には笑い、時には大きくうなずきながらの聴講となりました。林覚乗さんのお話は多岐にわたりましたが、あえてお二人のお話の共通項を上げるとしたら、逆境の先にこそ得るものがあり、その逆境を乗り越えるのは「ご縁」であった。とまとめる事ができるかと思います。

特に在家出身の大河僧正は高野山大学時代、ほとんどツテがなく、一人暮らしも出来ずに、住み込みの寺生として高野山での生活がスタートしたそうです。休みもなく、ほとほと辞めようかと思っていた矢先に池の掃除を申し付けられ、仮の水槽に入れていた鯉がそこから飛び出して死んでしまい、鯉を埋めているときに鯉のような、お大師様の声が聞こえたそうです。「辞めたら、お前も同じになる」と、それからは気持ちを入れ替え、お世話になっているお寺の住職様から日常のしつけを受けて僧侶としての人生が始まったと話されていました。何とも不思議なお話ですが、その声が聞こえていなければ、多分お坊さんにはなれていなかったともいわれていました。人によっては、それは自分の心の声ではないかと仰る方もいるかもしれませんが、高野山という場所はそれがお大師様の声だと信じることの出来る霊地です。

すでに皆様にもご案内をしている通り、今年は弘法大師空海　お大師様のご生誕千二百五十年に当たり、ご誕生法会を高野山で行います。九州地区のお坊さんが五月二十一日に壇上伽藍に出仕して法要を行いますので、当山からも団体参拝を募っています。壇上伽藍とはお大師様が高野山をご開創された折、真っ先に着手された場所です。密教思想に基づく諸堂をお大師さま自らが土を踏みしめ、心血そそがれ建立されたと伝わっています。それらのお堂などを各支所が担当して使わせて頂き、法要を行います。皆さまがお堂内に入れるかはまだ分かりませんが、普段は御開帳されない諸堂を拝観することが出来ます。因みに大分支所は山王院を担当致します。残りの募集人数もあとわずかですが、この勝縁にご参拝を希望される方は是非お声かけ下さい。

当山記念事業の途中経過をお伝えいたします。昨年の七月に概算見積もりを行い、皆様への説明会を三回開いた後、法要会館並びに庫裏建立の記念事業を行うことになりました。そして三月に詳細見積もりを佐伯建設さんより提出頂いております。当初は昨年度中に本契約を行い、新年度から建設に取り掛かる予定でしたが、皆さまもご存じのように、昨年からの急激な物価の高騰や人件費の値上がり、円安などの影響により、概算見積もりも約四割高の詳細見積もりになっていました。皆さまから貴重なご寄付をお預かりしての記念事業ですので品質を下げることは本望ではありませんが、最小限の範囲で部材や施工の変更などを取り入れて見積もりのやり直しを行っています。設計士の阿南さんと佐伯建設さんにはご足労をお掛けしていますが、ここを何とか乗り越えて後世へと引き継げる記念事業にしたいと念願しています。

三月で一番盛り上がったのはWBCワールドベースボールクラッシックではないでしょうか。大会期間がお彼岸と重なっていましたのでゆっくりと観戦することはできませんでしたが、準決勝、決勝戦の見どころが丁度お昼の時間と重なり、リアルタイムで応援することが出来ました。今回の活躍を漫画のようだと例える人がいましたが、私には神様が居るとしか思えませんでした。

合掌

令和五年五月八日（月曜日）十四時半より
金剛宝戒寺　本堂において
「法話の会」